

2019 年度「一般社団法人日本木材学会中国・四国支部地域功労賞」

【受賞者氏名】

藤田 誠（ふじた まこと）氏

【生年月日】

昭和 36 年 9 月 16 日

【最終学歴】

昭和 59 年 3 月 高知大学農学部林学科 卒業

平成 10 年 3 月 愛媛大学大学院連合農学研究科修士課程 修了

平成 20 年 9 月 博士（農学）取得

（愛媛大学大学院連合農学研究科 乙博第 125 号）



【所属機関】

愛媛県農林水産研究所林業研究センター

【受賞業績題目】

愛媛県における地域材を利用した公共建築物等への技術支援

【受賞理由】

藤田氏は 1988 年に愛媛県に採用され、1990 年に当時の林業試験場が旧川内町から旧久万町へ移転し、新たに林産部門が新設されるのにあわせて配属された。それ以降、愛媛県産材の需要拡大を目的に木材の加工利用に関する試験研究に取り組んできた。

1998 年に県内で初めて、ギャングソーによるスギ小割り製材及びスギ集成材製造工場が設置されたが、当時スギ原木の小割り製材等の加工データが少なかったため、原木の性状から製材・人工乾燥・接着工程など、安定的な製品の製造が可能になるようすべての工程での技術支援を行った。

愛媛県では 2001 年を森林そ生元年と位置づけ、水源地域の森林づくり対策や放置林対策等に取り組んだ。特に、公共施設等の木造化の推進が図られ、愛媛県内に数多くの木造公共建築物が建設されることとなった。これら県内市町が発注する木造施設において、木材の材料仕様の記載方法や現場の技術相談に応じ、建設側と木材供給側の連携を図り、地域材の公共建築物への利用促進に大きく貢献した。中でも愛媛県が木造振興のシンボルとして建設した愛媛県武道館の建設にあたっては、当時あまり多くなかった県産スギ材ラミナの強度データの収集・提供を通じて、スギ集成材製造工場や設計・施工業者の技術支援を行った。また、県産スギ集成材とスチールプレートによるハイブリットトラス構造となっている武道館屋根架構の性能を実験により検証を行った。さらに、武道館の本館玄関側に建てられている直径 620 mm、最長約 28 m の無垢円柱材の縦継ぎ接合方法に関して、木ダボ接合を提案し、その接合技術の確立及び性能の解明・検証を行い、大規模建築物での木ダボ接合を初めて実用化に繋げた。

これらに加え、全国で初めて愛媛県内で木造橋が落橋するという事案が発生したことをうけて、落橋した部材を用いた劣化診断及び残存強度の確認を行い、そのデータの公表を通じて、木造橋の安全性やメンテナンスの必要性について注意喚起を行った。

以上の点に鑑み、藤田氏を 2019 年度日本木材学会中国・四国支部地域功労賞に値するものと評価した。